

第169話 教育の機関「郷学校②」「私塾と寺子屋」 中山町 歴史散策

白石金輔の子、金平は、柴橋の平塩、山崎に住み、白石顕良塾を開いて、平塩、小塩、岡、長崎、山辺などの若者を教育、雲山先生として親しまれました。門人の中には長崎の柏倉文蔵、山辺大蔵村の多田理助など、幕末の村山郡に名を轟かせた人材を輩出、さらに柳沢村の西塔熊吉、岡村の須貝清三郎の名もありました。

豊田地区の南部3地区を除いた、小塩、岡村に地元の師匠の酬恩碑しゅうおんひが見当たらないのは、この地区の子弟の多くが平塩の雲山先生の塾で学んだからと言われています。また、岡八幡神社には、祭りの大幟おほのぼりが残されており、雲山先生唯一の遺筆であると言い伝えられています。

私塾と寺子屋

武家社会の藩学、郷学校に対して、庶民の子弟が「読み・書き・そろばん」を習う私塾や寺子屋が多くなるのは江戸時代後期の頃でした。豪農豪

商の間に、学問芸術をたしなむ者が次第に多くなってきたのも、この頃です。

庶民の間に高まる学究への意欲は、商品経済の発達に伴って、正確な記帳や計算技術の習得が不可欠の資質となり、従来の人倫処世の学問から実利追求の教育に向かうことになりました。

その基礎となったのが寺子屋で、五人組帳や諸法度書を手本に手習いをすすめました。その数は、寛政期〜文化文政期に飛躍的に増加し、近村では河北町谷地の松本塾（寛文3〜4年）を筆頭に、631を数え、幕末には1000以上に及んだとも言われています。

（『山形県史』近世篇第3巻）

【用語説明】

門人・門下の人。弟子。

酬恩碑…感謝して建てられる石碑。

石碑。

※引用 中山町史 中巻

第10章第2節 教育

いながき



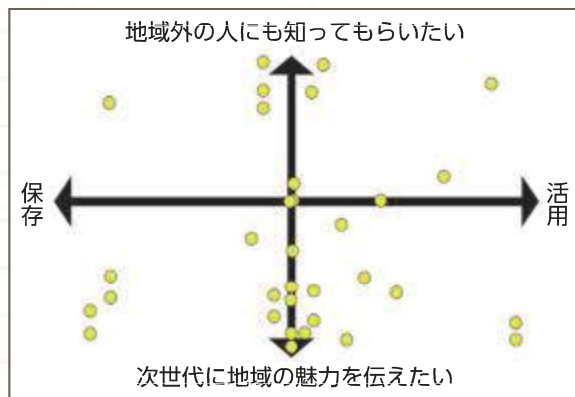
私たち地域おこし協力隊です！ No.36

先輩協力隊から引き継いだ中山町情報の一つ、安田製パン。中でも黒糖おいもブレッドが大好きな協力隊の稲垣です。

4月から連休明けにかけて中央公民館、ひまわり温泉ゆ・ら・ら、ほんわ館にて協力隊の活動報告としてパネル展示を行いました。その期間中、柏倉家について地域の方はどんな考えや意見があるのかを知るために、パネル展示をご覧いただいた方を対象にアンケートを行い、最終的に下図の結果となりました。どの領域にも意見がありますが、今回お答えいただいた方については、柏倉家を地域の魅力として次世代に継承していきたいと考える人が多く、「とにかく地域で継承していこう！」というご意見が多く聞かれました。

活用を通して地域の次世代に継承していく例であれば、学校での見学や体験講座などの事例もあれば、現状でも公開日にご家族で見学いただくだけでもいいかもしれません。今後、今回の結果をそのまま鵜呑みにすることはできませんが、ニーズの一つとして企画の際など参考にしていただければと思います。

どれが正しいかではなく、それぞれが「どの視点ではどう考えることができるか」ということを共有できたことは、このアンケートの大きな成果です。ご協力ありがとうございました。



●協力隊への問い合わせ先● 伊藤 ☎662-2114 (産業振興課) / 稲垣 ☎662-2235 (教育課)